

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790500037		
法人名	医療法人社団慈泉会		
事業所名	グループホーム南湖 1		
所在地	福島県白河市関道引目橋33		
自己評価作成日	平成26年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成27年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然豊かな場所に位置し近くには南湖公園があり、四季折々の景色が楽しめ利用者様の憩いの場になっています。利用者の方々が高齢ではありますが、食事の準備や買い物、趣味活動等できる事をスタッフと共にいきながら穏やかに生活されています。私たちは入居されてからも今まで暮らしていた環境から遠ざけるのではなくコミュニティへの参加や馴染みの人達との関係を大切に継続して交流が図れるよう配慮に努めています。日常生活の中でケアに問題点や改善点が生じた際には常にカンファレンスを行い後回しにしないことを心がけており、支援を統一することで利用者の状態把握に努めています。家族会や運営推進会議などで認知症の理解や支援のありかたについて常に情報を開示し、理念を伝えることでホーム運営の良き理解者が増えてくれるように力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、利用者の家族、地域の方々も参加し様々な事業や研修の場として施設開放を実施し、地域の一員としての役割を担うとともに、町内会への加入、地区幼稚園行事への参加や、法人主催の夏祭りを地域に開放するなどして地域に広く認知される事業所を目指している。更にホームページの毎月更新などにより認知症や事業所の役割について周知することができている。協力医療機関、及び同一法人の医療機関や老人保健施設などとの緊急時の協力体制もできていることから看取りの実践に繋がったケースがある。利用者の希望時は日常的に外出への援助がされている。更に、事業所開催の消防訓練には地区消防団の参加や住民の協力もあったと聞いた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員はミーティング等の話し合いの場で支援の方法を考えると、今このケアや考え方はどうなのかと理念に立ち返って考えられるよう意見交換を進めている	法人全体の理念を基に事業所理念が作られている。理念は事業所出入りに掲げられており、職員は出勤時に理念を読み日常の援助に生かしていると聞いた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行うひもろぎの花火大会、秋祭り、南湖クリニックでの盆祭りでは地域との交流を図っており多くの参加者で賑わっている。回覧板を回したり運動会や地域の行事にも出来る限り参加して交流を図っている。	町内会加入により回覧板を回したり、法人で行われる花火大会、秋祭り、関連医療機関開催の盆踊り等を通じ地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キヤフハンメイトとして活動しており、講習会等で事業所での実践を通して多くの人に認知症の理解を深めてもらう活動を行っている。法人のホームページでも活動内容や認知症の啓蒙活動など積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当課長、地域包括支援センター、介護相談員、地域代表、家族代表で構成され、会議では利用者の様子をスライドを使って紹介したり、認知症の理解を深める為の意見交換などを行っている。	利用者の日常の生活や地域との交流について、スライドを使いわかりやすく活動内容を報告している。認知症による周辺症状や看取りのことについて、意見交換を行い認識を深めている。	運営推進会議であがった地域の方への車椅子操作研修が、自治会の事業計画との調整のため保留されていると聞いた。協議を進め開催ができることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは認知症サポーター養成講座の講師派遣や介護相談員の受け入れ、運営推進会議の委員を通して信頼関係を築いており、運営上で問題が生じた場合には積極的に相談ができる関係を保つことが出来ている。	行政とは認知症サポーター養成講座の講師派遣や介護相談員の受け入れといった活動と、市担当者が毎回会議に参加しており連携が密に取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含め職員全体が身体拘束をすることの弊害を理解し、勉強会の開催で知識、技術の向上に努めている。日中の玄関の施錠を含め、日々の何気ないケアが拘束にあたらないかを常に検証するようにしている。	身体拘束について学ぶ研修を年1回開催し、理解を深めている。利用者居室には、移動がすぐに分かるよう鈴やタンバリンを使う工夫がされていた。中途採用の職員についても其の都度伝達研修を実施していると聞いた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に全体ミーティングやカンファレンスを通して知らず知らずに虐待になっていないか、不適切ケアになっていないか確認している。勉強会を開催し虐待関連法の内容についても職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は利用者の中で成年後見制度を活用している方がいる為一通りの説明は行っている。今後も対象者が居るときには活用できるように支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時、利用前、利用開始時、と数回に分けてその時の疑問、不安点の確認作業を行い説明や理解を図れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子を報告し気軽に会話が出来関係作りを行っている。家族会を開催することで、家族と職員の交流が深まるよう機会を作り意見が通しやすい環境を作っている。又家族会や運営推進会議においてもご家族にホームの運営に携わって頂きながら理解がすすむよう毎月1度開催する全体ミーティングや申し送り等を利用し、職員の意見や要望が聞ける機会を設けている。主任者会議の内容を周知することで職員1人1人が法人の運営や管理に感心をもち疑問点は管理者に話せるよう努めている。	家族の頻繁な面会や年2回の家族会開催もあり、家族等から意見や要望が直接聞ける関係ができています。家族等から日々挙げられた意見は職員間で話し合、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度開催する全体ミーティングや申し送り等を利用し、職員の意見や要望が聞ける機会を設けている。主任者会議の内容を周知することで職員1人1人が法人の運営や管理に感心をもち疑問点は管理者に話せるよう努めている。	月1回行われる全体ミーティングやフロア一体ミーティングで意見交換をしている。管理者に日常的に意見が言える環境があり、食器購入や利用者用のクッション等提案し即日購入したと職員より聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活環境に配慮しパート等の雇用形態も採用しそれぞれの希望を取り入れた勤務形態を取っている。又上級資格を目指す職員に対し、勉強会を開催したり本人の希望や能力に合わせた仕事ができるよう面接を実施したり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内での勉強会や法人全体の勉強会を開き職員の知識と技術の向上を目指している。又グループホーム連絡協議会が開催する講習会や各種研修にも職員が積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地区グループホーム協議会の会議、研修会を通して他の事業所との交流に努めている。管理者は県グループホーム協議会の運営委員を務め県内事業所全体の資質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や困りごとを職員に話しやすいような適度な距離感と雰囲気心がけ、出来るだけ希望に添えるよう支援している。今までの生活を知り馴染みのある暮らしが出来ることで安心して生活が出来ると感じてもらえるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族が希望や不安を話しやすいよう、ホームでどのような生活になっていくかや理念を分かりやすく説明し、関係を築く努力をしている。入居してからも、折に触れ本人の様子を伝えながら家族の話聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人から話を聞き、家族から意見や今の本人の思いを聞き、自分らしく過ごすためには何が必要なかをスタッフ皆で考えて支援に繋げている。広範的に支えられるよう広い視野をもち地域の力等も頭に置きながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるというよりも生活のパートナーとして同じ屋根の下暮らすという思いで毎日をすごしている。お互いが助け助けられ支えあいながら生活し、笑顔が生まれる中過ごす事が出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出、外泊、面会など、家族の力を本人に繋げながら家族との時間を大切に考えている。ホームの中の職員と外の家族が共に連携調整し、本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の中で大切にしてきた事を入居前に会い話し聞く事で情報収集し、入居してからも同じようなお付き合いが出来るよう支援している。馴染みの人たちにいつでもホームへ足を運んでもらえるような環境づくりに努めている。	初回面談の時に、しっかり情報収集することで、入居された利用者が以前加入していた老人会に参加できる支援をしているとのことであった。又、家族の協力も戴き利用者の友人のホームへの訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や今出来ることを知り見極め、皆が上手に関わり合えるよう職員は目を配り、時に間に入り気持ちよく生活できるようにしている。時に職員抜きの利用者同士での支えあい、楽しみ合いも見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別施設への移動による退去や死亡による退去の家族とも関係が続き、訪問くださったり、品物を送ってくださったりとお互いの近況を伝え合いながらお付き合いさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、どのように生活を送りたいのか、どのような希望を持っているのかを、会話やしぐさから汲み取っていく。又、希望が伝えられない場合でも、ありのままの本人を尊重しその時に必要なニーズを捉えられるよう心がけている。	日々の援助の中で、利用者の言葉やしぐさを汲み取ることで、認知症が進行した利用者の終末期に対する本人の想いを受け止め、本人の望む最後を迎えることができた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問の際にフェースシートを用いて、生活歴やなじみの環境などを本人やご家族から情報を得ている。また、入居前利用していたサービス事業所からも情報を送ってもらったり、聴いたりしながらできるだけ多くの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の時間の流れの中で、入居者の方々は一人ひとりそれぞれの時間を過ごしている。申し送りの中で統一したケアを行い、今、そのとき出来ることを本人の表情やしぐさから感じとり、体調の変化や気持ちの変化に気づきながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活記録や申し送り、カンファレンスなどを通してご本人の希望や思考を読み取り、家族や医療チーム、関係機関と連携し、ご本人の状態に合った生活が出来るよう、できるだけ詳しく介護計画を作成している	職員の気づきは生活記録や申し送りで一旦有し二週間の実施後、再検討した結果を基に、カンファレンスで共有し、利用者、家族、そして医療チーム等と共に介護計画書を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に入居者がどのように過ごし行動をしたか、どのような会話がされていたかを残す事でケアの対応策に役立てたり、介護計画作成時に活用したりとしている。両フロアのスタッフ間でも申し送りを一緒に行ったり、皆で意見を出し合いながら介護計画の作成や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズ、家族からの希望を取り入れつつ、現在の状況に合った、支援をその都度考えている。生活に苦痛のないよう工夫するため、こまかい部分にまで気を配り、今必要なサービスを取り入れられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校や幼稚園の運動会への参加や馴染みの美容室、地域の理容室の利用など本人や家族に聞きながら行っている。回覧板を回しに散歩をしながら行くなど気分転換も図れるよう支援している。又防災訓練に参加していただきホームの理解を進めて		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する際家族や本人の希望を聞きながらかかりつけ医を決めている。医師には病状だけでなく、ホームでの生活の様子を伝える事で事業所に対する理解を深めてもらい、本人に合った医療を支援してもらっている。	本人及家族希望の曜日つけ医に受診している。通院の援助は原則事業所が行っており、異常時は家族へ電話で報告している。家族受診時は日ごろの状態のメモを家族に渡したり電話で主治医へ報告しているとのこと。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活において体調の変化や日常生活の変化をこまめに記録に残し状態観察を行なうと共に日誌を共有し連携看護師に相談し助言や支持を受け、病院受診などにつなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時がアップリケからの紹介状と情報提供(連携シート)を持参しスタッフ同行し受診。退院の際も病院に出向き家族と一緒に主治医に状態の確認や退院後の注意点、今後の対応などを確認。退院後ケアが適切に行なえるようスタッフ間でも情報の共有を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際ターミナルケアについて説明をし同意を得ているが実際終末期になった場合再度家族と話し合いながら状態を考慮した上で方向性を決めている。また医療・福祉情報センターに相談をしその方にあつた往診医を紹介していただき最善のケアが行なえるよう努めている。	入居時及び終末期に家族と話し合いながら、方向性を確認している。定期的な往診や医療連携の看護師が日に2回事業所を訪問し利用者の身体状態の確認や、状態がわかる日誌の共有により必要な処置をするなどの連携が取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ間の緊急連絡網を活用し急変時や事故発生時迅速に連絡が取れる体制を整えている。またホーム内にAEDが設置されているため必要時の利用や緊急時の対応マニュアルが常に常備されている。スタッフはほぼ全員救命救急講習を受講しており地域のの方々の協力を得ながら避難訓練を実施している。また同敷地内の事業所と協力し夜間想定避難訓練実施や各部署の緊急連絡網も活用している。スタッフ間においては携帯電話の災害時伝言掲示板の活用家族会での承認を得てメールで連絡が取れ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回夜間想定火災避難訓練を地元消防団の協力を得て実施している。更に月2回携帯電話災害時伝言掲示板を活用し職員連絡体制の訓練も重ねている。訓練時は地元の方が多数参加してくれたそうである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の性格にあわせて、尊厳やプライバシーを損ねないよう配慮しながら、細かい説明や対応を心がけている。利用者の不安や不満が少なくなるようケアに努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムや、性格、疾患に配慮しながら対応している姿が見えた。利用者が判断しやすい声掛けの工夫がされており、利用者の表情は良く笑顔が多かった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に理解しやすい言葉で選択を促したり、決定が難しい方には、決定できるよう助長したりとお手伝いを行なっている。何がしたいのか、何か欲しいものはないか、どんなものが良いのか、好みにあっているか、一つ一つ確かめながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や疲労に合わせて生活支援を行なう。中庭で日向ぼっこをしたり、食事の準備をしたり、雑誌やテレビを観たり、散歩に出掛けたりと、個人によって余暇の過ごし方が違う為、その時間を妨げないよう、また一緒に時間を共有しながら生活をしてい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪きりや髭剃りをしつかりできるよう手伝ったり、整髪や洋服選び、お化粧品やスキンケアなどを行なう方には、上手に出来るよう見守りや仕上げなど支援している。また、希望や季節によって、美容室や理容室に行き、手染め、整髪をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物行き、食事の準備や片付けまで一緒に行なっている。メニューには四季の食材を取り入れ季節の味を楽しんでいただいている。利用者の誕生日にはケーキを一緒に作り楽しませている。	1日の中で、食材が重ならないように献立が工夫されている。食事中は会話が多く、利用者の力に応じた役割があり、笑顔で其の役割をしている姿があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせてお粥、刻み食、栄養補助食品等提供している。又、食品によっては水分量を増やしたりトロミ等に対応している。お茶時には本人の希望を聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。歯磨きが難しい方は職員が介助にて行なっている。夕食後には毎日ポリデント洗浄し清潔を保っている。必要時には歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えの無い利用者場合はしぐさや表情を観察し声掛けトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。一人一人の排泄パターンを把握し声掛けを行なっている。	オムツ使用の利用者に対しては最初にオムツを外し、リハビリパンツに替えて、排泄リズムを探りトイレでの排泄に続けている。現在オムツ使用の利用者は殆ど寝たきり状態の方のお一人とのことであった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューには食物繊維や野菜を多く取り入れたメニューにしている。 排泄表にチェックし排泄管理を行い下剤の量を調整しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。 個々の希望に添えるように日のある暖かい時間に入って戴いたり、体調に応じてシャワー浴として対応している。又、能力にあわせスタッフは近くにて会話を楽しみながら見守りや一部介助にて支援している。	入浴時間は利用者の希望に沿い提供していると聞いた。入浴後希望により寝巻きに着替える利用者に対しては、食事のときなどはカーディガンを羽織るなどの援助をしていると聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れすぎないよう短時間でも休息されている方等、個々の体調やリズムに合わせて声かけをしている。又、体調に応じ夜スムーズに眠れるように暖かいうちの散歩を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の内服が分かるように個別ファイルを管理し、内服変更があった場合には記録に残し申し送りをして職員全員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合わせお手伝いをお願いし、職員と一緒にいる。余暇の時間には歌を聴いたり、パターゴルフ、パズル等本人が得意なことをスタッフと一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況を見ながら散歩や買い物に誘っている。移動販売車も利用し、外に出れる機会を作っている。また普段は外出が難しい利用者にも季節ごとのドライブには参加できるように支援している。	食材の買出しは利用者と一緒に出かけている。個別性の高い買い物や希望時にも対応できるように、午後の時間に対応できる職員配置をしている。事業所内では年2回小旅行を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人から預がっているお金はホームの金庫にて保管している。買い物時、外出時散髪の時など持って行き、本人に手渡しをして買い物が出来るようにしている。品物が欲しいとの希望があれば、その都度外出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各自担当が決まっており家族への大切な報告、相談、お知らせは必ず電話や手紙、または面会時に連絡している。年賀状や暑中見舞いなどは利用者さんの直筆で書いていただいたり、代筆などで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人が集まり時間を過ごされる居室には季節を感じれるように四季折々の装飾や行事の飾りつけを行い工夫している。装飾なども利用者と共に作成したり一緒に楽しく過ごせるよう努めている。季節の風物詩、花、植物等をかざり季節の移り変わりを取り入れている。	共有スペースには季節感あふれる装飾や、利用者や、職員と一緒に作った作品が飾られていた。又、廊下には利用者の日々の暮らし向きがわかる写真が飾られ、和やかな空気が流れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を重視し利用者が談笑したり、皆と活動したり出来るよう見守り声かけ等している。また、一人で過ごしたり趣味の活動を行なう場合などは環境を整えながら穏やかな時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、たんす、仏壇など部屋に置き、本人の希望によっては畳やカーペットを敷いている。趣味に合った飾りつけや好みの写真を貼るなど個性を活かした生活の空間を提供できるように努めている。	居室には自宅で使っていた家具、筆筒、位牌など馴染みのものがあり落ち着ける空間が作られていた。又、位牌に毎日ご飯を上げたり、花を飾ったりと自宅と変わらない日々の暮らしができる工夫があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの力にあわせて持っている力を生かし生活できるよう物の配置には配慮している。家族や趣味などの情報をもとに出来るだけ自立して行なっていただけよう配置している。必要なときは介助し安全に過ごせるよう支援している。		